

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500752		
法人名	社会福祉法人 穩寿会		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	千葉県千葉市緑区高田町1084番地2		
自己評価作成日	令和5年1月21日	評価結果市町村受理日	令和5年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の入居者に役割を担って頂いています。役割を持つことで個々の入居者が生きがいを持って日常生活が送れるよう支援しています。個々の入居者の方には職員が関心を持って関わり、集団生活の中で意欲低下や孤立せず日々の生活を送って頂ける様その人個々の存在を大事にしています。感染症対策に重点を置き、入居者・職員の命を守り、入居者が安心して生活が送れるように備品の確保、各種マニュアルの作成と見直しを行っています。感染症が発生した時を想定し、シュミレーションを行い予防衣の装着と着脱方法の指導を行うなどの対策を講じています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに、グループホームの理念である「個々の役割を生きがいに繋げる支援を」を掲げている。又、理念に基づき、年度毎にユニット目標を掲示し実践目標としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事は、コロナ禍の影響で中止、又は参加を自粛している。地域とのつながりが切れないように、近隣の商店等を利用するなどして地域との情報交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者家族を通して、グループホームでの生活の様子を伝え、認知症の状態にあっても生き生きと生活している様を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍の下、書面開催となっている。メンバーから、職員への労をねぎらう言葉を多くいただき、職員の励みになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あんしんケアセンター及び市の担当職員との相談しやすい関係が構築できており、都度、適切なアドバイスを求めることが出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	役職者は、千葉県高齢者権利擁護・千葉県身体拘束廃止研修事業委員会の役を担っており、指針の作成及び委員会の設置と事業所内での勉強会を通し、全職員への周知、徹底を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議、ミーティング、カンファレンス等を通して日常での虐待事案がないかの確認を行い、年に2回は研修を実施し全職員で虐待についての理解を深めている。虐待発見時の報告義務を怠ることがないように周知している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるときは直ぐに対応できるように関係機関との連携を取っている。又、成年後見制度の利用がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定等の際は、契約書を取り交わし承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気付いたことや変わりがあった時、相談があった時は、電話やメールで情報を共有している。家族からの要望は、その都度申し送りをしてサービスの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の前にリーダー会議を行い、ユニット内での意見や、職員利用者からの意見や要望等を聞く機会を設けたり、個別面談を行って職員の思いを聞き出せるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップを図れるように、常勤・非常勤を問わず研修や勉強会の機会を設けている。年2回職員面談を実施し各職員の生の声を聞き『働きやすい職場』を目指している。又、資格取得のための援助やシフトの配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し職員のスキルに合わせた研修に参加しスキルアップを目指している。又、新入職員については、OJTシートを活用し、新人職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の各種委員会や行事への参加や協力体制を作り、活動の幅を持たせる他、管理職にある者への研修を行うなど、法人全体のサービスの質の向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、本人が入所初日から不安なく生活に馴染めるように取り組んでいる。また家族からも聞き取りを行い、習慣を崩すことなく自宅の延長線上になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報収集の際に、家族からの要望を伺いプランに組み込み実践に繋げている。家族と話す機会があった際に実践している内容、変化について伝え関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具や介護用品、オムツ給付の相談を行っている。又、身障者手帳や自立支援医療の有無の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物量や掃除をやってもらっている。食事作りや洗い物等は、感染対策を講じてできる工程を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が中止となっている為、オンライン面会、手紙、メールで写真を送る等、関係性が途切れる事がないようにしている。携帯電話を持って入居される方もいるので充電が切れないように適宜確認し環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙やはがきのやりとり、私物の携帯電話で誰とでも話せるような環境を作り努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や日頃の様子を見て席の配置を検討したり、孤立する事がないよう、職員がきっかけ作りをし、一緒に取り組める環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを利用して家族の知り合いを通して、新規の申し込みを受けたりしている。都度、お礼を述べる等の関係性を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、プランを作成している。思いが伝えられない入居者には出来る事とつまずいている所を見極めた上でプランニングしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を確認し、アセスメントシートを作成している。新たに得た情報は随時更新している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コロナ感染症対策の為、以前の様に両ユニット職員間で口頭での申し送りは中止となっている。電子カルテ等を活用し、バイタルや受診記録等の確認を行い情報の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの場で検討を行い現状に即した支援を行えるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などは申し送りノートに記載し、必要に応じてミーティングの場で話し合いを設けている。本人の言葉や思いを受け入れてケアプラン検討と見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の為、外出に制限があり中止となっているが、入居者の希望で自宅まで一緒に荷物を取りに行ったり、病院への付き添いも行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策の為、外出が禁止となってしまうが、一時緩和されていた時は感染対策を講じた上近隣の保育園との交流や買い物にもでかけていた。コロナ感染症が収束したら再開したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設と医療連携をしている医院に通院しているが、必要に応じて他医療機関にも受診をしている。ご希望があればご家族も一緒に同席し、職員が医師に病状を説明し、適切な医療を受けられる様に支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護師との連携により健康管理に努めている。食事量や水分量等の相談を行い処置や受診等の指示を受けている。24時間オンコール体制により、急変時は夜間帯でも相談出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添いアセスメントシート等の情報共有を行い。本人が安心して治療出来る様ご家族と一緒にムンテラに同席し、注意事項などを確認し、職員に情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で看取りを希望された時は、主治医より本人・ご家族にインフォームドコンセントを行い医師・看護師と医療連携を図り、本人や家族の意向を確認しながら終末期を安心して迎えられる様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設に指導者を招き、内部研修会を行い急変時の対応について学んでいるが、コロナ禍の為、未実施となっている。新人職員も在籍しておりすべての職員が周知出来る訳ではなく不安に思う職員もいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回、日中及び夜間帯想定地震・火災発生時の訓練を行っている。水害時の緊急連絡網等の周知は出来ているが、帰宅困難時の宿泊場所確保等の整備については不安がある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格、認知症の中核症状や周辺症状の違いを理解し、認知症であっても、出来る事と出来ない事を見極めて、今出来る事を継続出来る様支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人の意思を確認し判断して頂いている。入浴についても意思確認を行い入浴を辞退される時は曜日を変えるなどして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の過ごし方については決まり事は設けていない。個々に合わせた就床や就床食事の時間についても入居者のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は個々の自己決定を尊重し、季節に合った衣類の交換などご家族に協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望する食べ物を聞き取り希望に合わせて感染対策を講じた上バーベキュー会や焼き芋会を開催している。また食材のカットや後片付けも感染対策を講じた上で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は電子カルテに記録し、食事や水分摂取の低下がみられたり、体調等を考慮して、補食等を提供している。塩分や糖分が過度な摂取にならない様低糖質・減塩調味料等を使用し、食事作りに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い義歯着用の方は洗浄後夜間帯は義歯洗浄剤を使用し、清潔保時に努めている。1日1回は洗液ですすぎを行い雑菌除去に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを知り、定時のトイレ誘導以外にも声掛けを行い排泄の失敗を減らし、また夜間帯に尿量が多い方には6回分のパッドとトイレ誘導を行い、失禁の不安なく過ごせる様に支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取出来る様に、おやつ時にご本人好みのゼリーや飲み物等の他、個々に応じて牛乳や整腸飲料などを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が望まない時は変更を行っている。また希望する時間等のアセスメントを行い職員間で情報の共有を行い声掛け等の工夫も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床時間等は個々に異なる為、習慣に合わせて休まれている。ゆっくりとリビングでTV鑑賞してから居室に戻り休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱の裏に服薬している薬の名前と錠数を記載し、把握に努めている。薬の目的を理解する為、処方箋のファイルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読む役割や戦争体験を語る等個々に役割を持っている。その役割が生きがいになるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出に制限があり中止となっているが、コロナが収束したら以前の様に地域のお祭りや遠足等の外出行事を再開したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染症対策の為、買い物等の外出は出来なくなっているが、一時緩和されていた時には一緒に近隣のスーパーで個人の希望する物を購入し、職員が支払うのではなくご自身で支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染症対策の為、面会が中止となっているが、手紙や電話などを活用し、家族との関わりの継続に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を感じて頂ける様に季節にあった植物や野菜などを一緒に育てており、収穫時にはその喜びを一緒に共感し、支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中でも気の合う仲間と会話が楽しめるよう和室にソファを配置し、ソファに座りながら昔の歌謡曲等を流しお茶を楽しめる空間作り等に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で愛用していた家具や小物を持ちこまれたり、ご家族と一緒に撮影した写真を飾るなど、本人が落ち着いて居心地良く生活出来る様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に居室とリビングの動線を往来できる様個人のシルバーカーや歩行器の保管場所は必要に応じて居室やリビングの床にマーキングを行いそちらの上に配置した頂ける様支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと